

学位被授与者氏名	佐潟 萌花（さがた もえか）
論文題目	「語られないものが語るもの」ーイシグロ初期作品にみる記憶とアイデンティティ
論文審査結果の要旨	本論文は、イシグロ初期作品を「語られなさ」という観点から統一的に読み解き、記憶とアイデンティティの構築を一貫した理論枠組みで整理した点に大きな意義がある。『遠い山並みの光』における分身構造の精緻な分析や、『浮世の画家』における反復・修正・遅延という語りの構造への着目は説得力があり、テキストの細部に即した読解が丁寧に展開されている。また、『日の名残り』『わたしを離さないで』へと議論を拡張することで、初期の純粋に日本を舞台とした作品をイシグロ文学全体の中に位置づけた点も評価できる。一方で、各章で提示される「信頼できない語り手」論や自己防衛としての記憶操作の議論はやや重複する傾向があり、理論的枠組みをさらに明確化すれば、より独自性が際立ったであろう。とはいえ、先行研究を踏まえつつ独自の解釈を提示し、作品横断的な視座を示した完成度の高い研究である。 2026 年 2 月 17 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E-303 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(英米言語文化)として十分な内容であると判定した。